

ロイユ・マルメゾン・ラジオクラブ (F6KFA) 訪問報告

中野幸紀 (JA3VWT)

2006年3月22日(水)夕刻、あらかじめ電子メールでアポイントをとっておいたパリ郊外のロイユ・マルメゾン・ラジオクラブ (RADIOCLUB DE RUEIL MALMAISON) を訪問した。毎週水曜日がラジオクラブの定例会合日ということもあって、会長など幹部のみなさんが出てきてくださっていた。

クラブに到着するまでが大変だった。クラブマネージャ、F6ICF ジョゼフさんからのメールで「ちょっとわかりにくい場所なので市内に入ってから 145.700 MHz のロイユ・マルメゾン・レピータ局を呼ぶように」と言われていたのだが、こちらから「緊急の場合には 432.220MHz で F6ICF を呼ぶから聞いておいて欲しい」とお願いしておいた。クラブの HP にある地図と住所をコピーしてパリに持ってきていたので、街区と建物の番号さえわかればなんとか行き着けるものとたかをくくっていた。パリのホテルを家族と一緒に



写真 1 : F6KFA の入っている団地建物

レンタカーで出発したのが午後5時過ぎ。シャンゼリゼを走ってエトワールに突っ込み、ポルトマイヨールから N13 を 10 キロほど走ってロイユ・マルメゾン市に6時ごろに入った。ここまでは頭の中の地図だけで OK。しかし、ここからがいけない。通りに街区表示が見当たらないし、町の見通しが見つからない。市内地図が必要だと気づいた。日本でもそうだが、市役所に行くとも無料の市内地図がある。これを手に入れば楽勝と思っていたのだが、市役所の前に行くともすでに駐車場が閉まっている。シマッタ、万事休すである。あとは直感と運に頼ってクラブ局の近くまで行き、F6ICF ジョゼフさんをトランシーバで呼ぶしかない。通りがかりのカフェに入ってクラブ局のある街区がすぐそこだとわかった。さっそくクルマを道端に寄せて日本から持ってきた VX-7 で呼ぶ。これが JA3VWT/F 局としての初めてのオペレートになる。フランス語での呼び出し方に慣れていないので、英語で「ハロー、エフシックスアイシーエフ・・・」などと呼んでみる。最初、145MHz のレピータ局周波数で呼んでみたが誰からも応答がないようなので、435MHz に切り替えて再度フランス語ふう「エフシスイーサーエフ・・・」とコールした。するとジョゼフが

すぐ応答してくれ、フランスでの初 QSO 成立、よかった、よかった。彼のクルマの先導でクラブ局に無事到着。予定の7時を少しまわってしまった。

ロイユ・マルメゾンはパリ西郊外、約 10 数キロの距離にある静かな住宅街区である。パリから近く、台地になっている。このマルメゾン一帯は、もともと第一次大戦などのあと、退役軍人が住みついた高級住宅街である。この台地をクルマで登っていくと屋上に大きな短波帯の八木アンテナをあげた団地棟が見える(写真1)。この地上階(1階)の部屋にクラブ局がある。

ジョゼフとの QSO を聞いてさらにメンバーがかけつけてくれたこともあって、あまり広くない部屋に入りきれず、廊下と工作室にあふれた(写真2、3)。最初に「ハロー、なんちゃら」と英語でコールしたせいで、「もうひとり日本人がクラブ局をコールしてたぞ」などとワイワイやっていた。

写真3の真中の小柄な老人が会長の F6HSE ジョルジュさんである。小生の隣にたっている若い人がお世話になったクラブマネージャの F6ICF ジョゼフさんである。次々に自己紹介して握手して下さるが、コールサインが覚え

きれない。紙に書いてもらって、ああ、シーピービーと言うと、セペペー（CPB）だと答えが返ってくる。F6CPB（ミシェル）と F5SQ（アンドレ）は 3.6MHz 帯（フランスでは 3.5 ではなく 3.6 なのだそう。）と 7MHz 帯でよくオンエアしているそうです。しかし、フランスでは短波帯の大きな指向性アンテナを高くあげようと思うと市役所の許可が必要なのだそうで、許可の必要のないブーム長 4m 未満、地上高 12m 未満での小さいもので我慢しているとぼやいていました。F6KFA クラブ局メンバー相互の連絡確認用の短波帯でのロールコールは、毎日曜にローカル時間 08h30-09h00GMT ごろに 3.610-3.615MHz で、週の普通の日にはローカル時間で 12h30-12h45 に 7050kHz でやっているとわざわざ紙切れに書いてくれたのだけど日本からは聞こえないと思います、hihihi。クラブの会長代行 F6ICW（ベルナル）さん、F6HEV（ジャン・クロード）さん、F6GYJ（ジャック）さんなどのほかにもメンバーと挨拶させていただいたが、コールサインを記録しなかったのでどなただったか不明である。



写真 2：工作室での記念撮影

挨拶がひとしきり終わると工作室、クラブシャックなどを案内してくださり、最近ジョゼフたちが一番力を入れているスペースシャトルと近くのロベスピエール小学校の生徒たちの交信活動支援（ISS）についてクラブホームページ<<http://radiof6kfa.free.fr/index.htm>>の記録 VTR をみながら丁寧に説明してくれた。地域にどれだけ貢献しているかがクラブ局にとってもっとも重要な指標のひとつとなっていることが推察された。

おかえしに、今回の訪問の主たる目的のひとつだった「SEANET2600」大阪開催について、HP にアクセスして紹介させていただいた。「誰が飛行機代を出してくれるの？」などとチャチャ入れがあったりしておおむね所期の目標を達成できたと思うところである。

クラブ局が使用している部屋は町の市民クラブ活動共用スペースとして、写真クラブと共同で使用していたのだそうである。しかし、最近は写真クラブの活動が低調なのでラジオクラブが部屋のほとんどを占拠していると笑っていた。部屋のとなりには団地の大会議室兼教室のような部屋があり、そこでちょうどアマ無線入門クラスの資格講座が開催されていた。受講生は 20～40 歳くらいの若い男性が多かった。郵便局、市役所などの職場の仲間が呼びかけて集まってきているようだった。

フランスでは地域のクラブ局がこうした入門講座を開催し、試験は上級資格を持っているメンバーが実施するという仕組みをとっているようだ。入門資格者には F0（エフゼロ）から始まるコールサインが付与される。より上級資格として、わが国の電話級にあたるフォーンだけの資格があつて、F1、F4 というコールサインが付与されることとなっている。さらに、すべてのアマ無線機器の操作権限がある上級資格者には F5、F6、F8、F2 というコールサインが付与されることとなっているそうである。また、無線従事者資格と無線局のコールサインはひとつになっており、わが国の運転免許証のようなラミネートされた無線従事者資格証（Certificat d' Operateur Radioamateur）

にコールサインも一緒に書き込まれている（写真 4）。



写真 3：シャックでの記念撮影



写真 4：フランスのアマ無線従事者証



写真5 : RF&HYPER (無線機器見本市) 会場入り口

翌 23 日 (木) に、パリ市内西端のデファンス地区にある見本市会場 (CNIT) で開催されていた「RF&Hyper (短波・極超短波無線機器) 見本市」に参加した (写真 5)。そこに、フランスアマチュア無線家連盟 (REF) がブースを開設しており、連盟会長と事務局長にお会いすることができた (写真 6、小生の右が会長の F5GZJ (ジャン) さん、左が事務局長)。SEANET2600 の大阪開催をお伝えして、フランスの屋外無線 LAN 実験許可の状況などについてお伺いしていると、ちょうどそこにロイユ・マルメゾンの F6ICF ジョゼフさんが偶然やって来て、ふたたび話が盛り上がり、楽しいひと時をすごすことができた。

パリ滞在中にレピータ局の使い方などもジョゼフさんに聞いたのだが、VX-7 の充電器を持ってくるのを忘れて、電池残量が気になって、結局、ワッチだけで QSO はできなかった。次回のフランス訪問では電源を含めてもっとしっかり準備して行くことにしたい。

以上

写真6 : RF&HYPER 会場内の REF ブースにて記念撮影 (写真左側がフランスアマチュア無線家連盟 (REF) 会長ジャンさん)



大阪国際交流センター・ラジオクラブの平成 18 年度通常総会が開催されました。引き続き、国際交流活動を中心テーマとして活動します。今年 は **SEANET Convention 2006 Osaka** (<http://www.qsl.net/seanet2006/>) を支援します。

J13ZAG 大阪国際交流センター・ラジオクラブでは会員を募集しています。アマチュア無線を通じての国際交流活動を志す方の参加を歓迎します。連絡先 e-mail: ji3zag@ja3.net

Newsletter
<http://ja3.net/ihouse/html/nl.html>
 会報を自由にダウンロードできます

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Rollcall
 Every Saturday 00:00UTC @14.155MHz

Monthly meeting
 At International House Osaka
 On the 2nd Friday of each month